

現場力向上への取り組み

～ 日産自動車の事例に学ぶ～

7月21日(木)日産自動車(株)横浜工場にて第108回教育研究会を開催した。「現場力向上に向けての取り組み」のテーマで日産自動車における事例発表と工場見学を計画したところ、参加申し込みが定員を超え関心の深さが伺えた。同社のご配慮により見学用のバスを増発していただき、67名の参加で実施した。

現場力向上の施策

最初に同工場総務部長桜木俊直氏より会社概要と日産生産方式についてご説明があった。ユーザーに短い納期で高品質の車を提供するために、同期生産の拡大を進めており、エンジンの組立ラインでは部品を作業者の回りに配置することで作業の動きを最小にし生産能力を上げる「ストライクゾーン供給」を実施している。その推進のためには、現場力の強化が重要視されており、個人の能力を高めつつ、組織の機能をどう高めるかがポイントである。この観点から横浜工場ではスキルセンターにて技能教育に力を入れている。

技能教育の内容

引き続き、スキルセンター長の鈴木裕一氏より技能教育を中心に訓練内容についてご説明があった。新入社員から係長まで5層の区分で層別教育

工場見学の体験コーナーで技能にトライする参加者



(OFFJT)と技能向上施策として年間計画に基づき職場教育(OJT)が実施されている。

スキルセンターでの技能教育は1992年に始められたTPM活動に基づき自分の設備は自分で守る、その為の知識・技能を習得する場である。テキストや教材はトレーナーが指導を重ね改善して作成したものであり、見学者からテキストを譲ってほしいと希望が出る程よくまとめられている。技能伝承の場としてまた、教育は投資という会社の方針により、勤務時間中に年間200～250名が14講座の中から計画的に受講している。

この後、エンジン組立ラインと技能教育センターの見学を実施した。よく整備された工場で「ストライクゾーン供給」の現場や生の教育現場を視察することができ、充実した研究会となった。